

雨勉強会で課題検証

滋賀県 先進都市の事例学ぶ

滋賀県琵琶湖環境部下
水道課と淡海環境保全財
団は11月26日、草津市の
淡海環境プラザで平成30
年度第2回下水道技術講
習会（雨水対策勉強会）
を開催。雨水対策に関し
課題を検証し、ハード的
対策だけでなく、市民へ
の情報発信、自助・共助
への支援といったソフト
的対策について知見を深
めた。

国土交通省下水道部の
宮本豊尚流域管理官付課
長補佐が「雨水対策の最
近の動向について」と題
し講義。浸水リスク等を

踏まえて重点地区・一般
地区の区分、目標降雨、
段階的整備方針・事業費
を検討した「メリハリを
つけた計画」の策定やハ
ード対策、水害リスク情
報の周知等に関するツフ
ト対策の取組み状況を点
数化して5段階で評価す
る「浸水対策通信簿（試
行）」を紹介。滋賀県内
では、市民啓発や自助へ
の支援を行っている都市



宮本補佐

が全体の点数も高いとい
う傾向を紹介。平成30年
7月豪雨の教訓を踏まえ
て、国の都市浸水対策に
関する検討会で検討して
いる課題と強化すべき施
策についても触れた。

続いて岡崎市上下水道
局下水道課の権田康弘
計画係長と服部慎也技師
は「『持続可能な浸水対
策』〜未来へと『ほくら
が』つなぐ、下水道」と
題し講義。同市では、3
時間の雨量が245・5
ミという猛烈な雨が降っ
た「平成20年8月末豪雨」
を受け、下水道事業と河

川事業の連携を強化して
対策を進めている。

背景として、ピーク雨
量・総雨量ともに大幅に
計画を超える一方で、す
でに可能な限りの貯留事
業を実施しており、雨水
ポンプ場新設・増設のた
めの新たな河川協議が必
要になったことや、従来
の設計手法では大幅な超
過降雨時の評価・検証が
できなかったことを紹
介。

止水板設置費用の補
助、浸水深表示施設の設
置、浸水シミュレーショ
ンに基づくハザードマッ
プの作成、広域回線と接
続した警報サイレンの設
置などソフト対策にも力
を入れており、同市の浸
水対策通信簿は「5」に
近い78点となっている。